

# 平成二〇年夏の企画展「記録されたオリンピック」の報告

平成二〇年七月二日（火）～九月十九日（金）に夏の企画展「記録されたオリンピック」を当館一階の展示施設の一部で実施した。期間中、夏休みの子供連れなど、一、四五四人の来場者を集めた。また、当時の中山恭子公文書館担当大臣も展示会を視察された。

当該展示会は、まず、夏休みの子供たちになじみやすいテーマとすることを前提として、開催期間中（八月）に北京オリンピックが開催されることや二〇一六年の東京オリンピックへ向けて招致活動が行われていることに鑑み、テーマに「オリンピック」を選んだ。タイトルを「記録されたオリンピック」とした。

展示会の構成は、「戦前のオリンピック」、「戦後のオリンピック」、「そして、未来へ……」という三部構成にした。「オリンピック」とはいつても、第一回アテネ近代オリンピックから網羅的に振り返るわけではなく、当館に關係の所蔵公文書がある第八回のパリ大会から、「東京オリンピック」に焦点を絞った展示を行った。「戦前のオリンピック」では、昭和一五（一九四〇）年に開催予定であった幻の東京オリンピックに関する一連の資料を主に紹介した。「戦後のオリンピック」では、昭和三九（一九六四）年の東京オリンピックに関する資料群を紹介した。「そして、未来へ……」では、二〇一六年の東京オリンピックの招致ポスター七枚を展示した。

参考に、オリンピック展の関連年表と過去のオリンピックにおける日本人のメダル獲得数及び参加選手数のパネルを作成した。これらのパネルや

資料解説の確認には、JOCや秩父宮記念スポーツ博物館などの関係機関のご協力をいただいた。

展示資料の構成としては、当館所蔵公文書のほか、昭和館、外務省外交史料館、東京都公文書館のご協力を得て、それぞれの所蔵公文書のほか、当時のポスター・写真資料なども展示し、わかりやすい展示を心掛けた。

展示の全体的内容は、昭和一五（一九四〇）年に開催予定だった幻の東京・札幌オリンピックが、戦後、昭和三九（一九六四）年、昭和四七（一九七二）年にそれぞれ実現した、というストーリーとした。

以下、具体的な内容を記す。

## 戦前のオリンピック

- 一、第八回パリ大会へ選手派遣
- 二、永田東京市長が齋藤実外務大臣に送った要請文書
- 三、IOC会長ラッセル伯の視察
- 四、東京において第二回国際オリンピック大会を開催する件（請願建議）
- 五、準備は進む東京オリンピック大会（写真週報）
- 六、IOCによるオリンピック開催辞退の勧告、中止決定を各国公館に電報で報知
- 七、皇紀二六〇〇年関係文書（準備委員会文書）

#### 戦後のオリンピック

#### 八、戦後初のオリンピック招請

#### 九、開催候補地・東京への航空アクセス

#### 一〇、オリンピック準備事務局を設置

#### 一一、国立競技場法、同法施行令、競技場図面

#### 一二、オリンピック東京大会の準備のために必要な特別措置に関する法律

#### 一三、国立学校などに募金を呼びかけた文書、入場料金決定について

#### 一四、オリンピック大会記念硬貨

#### 一五、絵新聞「オリンピック東京大会の競技場」

#### 一六、東京オリンピック聖火リレー

#### 一七、札幌オリンピックに関する世論調査

#### 一八、オリンピック札幌大会の準備等のために必要な特別措置に関する法律

以上の内容を、中高生にも理解いただけるよう、国の機関の所蔵する公文書の内容をわかりやすく紹介した歴史公文書探究サイト「ぶん蔵」に登場するキャラクターの対話形式で紹介した。会場内では、オリンピック・クイズも実施して、各内容を有機的に結びつけた。これらの工夫により、来場者が歴史公文書に興味を持っていただければありがたいと考える。